

土田 英貴
内藤 幸雄

角当 行雄
小田切康陽

鈴木 矜子
山崎 正道
土田 英貴
角当 行雄
内藤 幸雄
梅若長左衛門
小田切康陽
松山 隆雄

舞囃子
富士太鼓

山村 庸子

安福 光雄
八反田智子
鶴澤洋太郎

地謡
野崎 美歩
梅若 景英
山中 遼晶
山崎 正道
小田切康陽

栗 焼

石田 幸雄

岡 聡史

狂言

《休憩十五分予定》

絹
伶以野陽子
富田 雅子

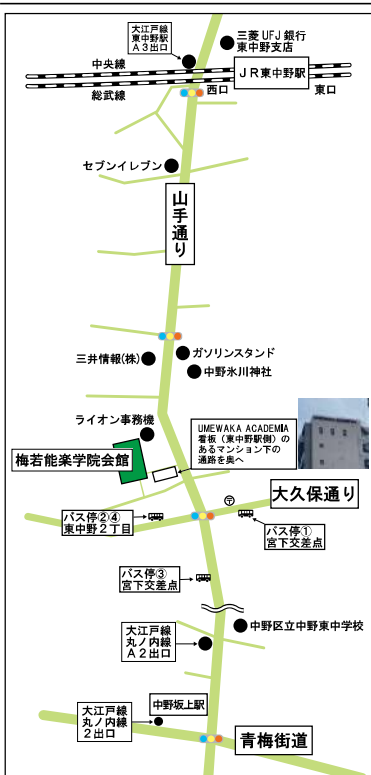
野口 琢弘

安福 光雄
金春惣右衛門
鶴澤洋太郎
八反田智子

間 野村 太郎

後見 松山 隆之
梅若 紀彰

地謡
三吉 徹子
鷹尾 雄紀
山崎 友正
角当 直隆
小田切亮磨
川口 晃平
高橋 栄子
山中 遼晶



<JR線>
・総武線・東中野駅西口 徒歩8分

<地下鉄>
・大江戸線 東中野駅 A3出口
・大江戸線 中野坂上駅 A2・2出口
・丸の内線 中野坂上駅 A2・2出口
いずれも徒歩8分

<バス>
①関東バス(宿05:中野駅経由)
新宿西口→野方行 宮下交差点下車

②関東バス(宿05:中野駅経由)
野方→新宿西口行 東中野2丁目下車

③京王バス(洪64:中野坂上経由)
渋谷→中野駅南口行 宮下交差点下車

④京王バス(洪64:中野坂上経由)
中野南口→渋谷行 東中野2丁目下車

*当会館は駐車場はございません。
ご来場の際は電車、バス等をご利用下さい。

東京都中野区東中野 2-6-14
(公財) 梅若会
(梅若能楽学院会館)
TEL: 03-3363-7748
FAX: 03-3363-7749

【鉢木】旅の僧が信濃から鎌倉へ上る途中、大雪に行き悩んだ。とある一軒家に宿を求めると、主の夫婦はあまりにみすばらしい所だからと一旦断るが一夜の宿を承知し、粟の飯を出し、夜寒に秘蔵の鉢植えの木をたき火にしてみてもなした。僧が名を問うと、渋りながらも佐野源左衛門常世と告げた。彼は一族の者共に本領を横領されて貧しい生活ながら、今でも錆びた長刀や瘦馬を大切に、いざ鎌倉という時に一番に馳せ参じて討ち死にする覚悟だと語った。やがて一夜を語り明かし、去って行く僧を夫婦は見送った。この僧こそ身分を隠して廻国する執権、最明寺入道北条時頼であった。鎌倉へ戻った時頼は、常世の言葉の真偽をただすため、諸軍勢を召集した。何も知らない常世は、かねての覚悟通りに瘦馬に鞭打って馳せ参じ、最明寺入道の前に呼び出された。入道はその忠節心に感じて本領を返し、さらにあの夜の鉢の木梅、桜、松にちなみ新たに三個荘をも与えた。常世はその御教書を戴き、晴れ晴れとこれを諸国の武士達に見せ、意気揚々と帰国した。

【巻絹】勅命により熊野三社に千疋の巻絹の奉納が下されたが、都の分の巻絹が届かない。都の使者は巻絹を持ち熊野に着いたが、音無の天神に参詣し祈願をこめた和歌をたむけて遅参した。勅使が遅れた使者を従者に縛らせると、巫女が現れ使者の縄を解けと告げる。巫女には天神が憑意していて使者の詠んだ和歌に感心したと話す。勅使は下賤な男が和歌など詠むはずがないと言とうと、巫女は証拠に使者に上の句を詠ませ自分が下の句を詠み和歌の徳を述べる。そして巫女は祝詞を捧げ、神楽を舞って神徳を語り説くが、やがて神霊が離れ巫女は正気に戻る。

【観能チケットとお願い】

- ◆自由席 7,000円・正面指定料別途 1,000円 (指定のご希望は公演1週間前までお申し込み下さい)
- ◆チケットは梅若会HPからメールまたは電話、ファクスにて郵便番号、ご住所、お名前、ご連絡先電話番号、ご希望席種をお書きの上お申し込み下さい。(https://umewaka.org/ TEL 03-3363-7748 (不定休)・FAX 03-3363-7749)
- ◆都合により出演者、曲目に変更がある場合がございます。
- ◆当日のクローケ(荷物お預かり)は閉鎖させていただきます。
- ◆梅若会の感染予防対策の取り組み内容
当能楽堂内は株式会社松美家様のご協力により、光触媒(抗菌)コーティング加工済ですので安心してご観能下さい。
- ◆観能に際してのお願い
主催者の許可のない公演中の写真撮影、録音等は著作権、肖像権等の侵害および他のお客様のご迷惑になりますので固くお断り致します。(開演前、休憩中のみ舞台の撮影は可能です。)
- ◆主催:公益財団法人 梅若会

